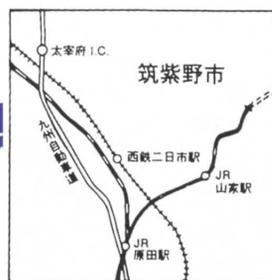


## 山家宿こぼれ話

ひよくづか  
比翼塚 (切害塚)

豊前中津藩に渡辺金十郎という武士がいました。安永7年(1778)6月、金十郎は藩主のお伴をして、新婚まもない美しい妻を残して江戸参勤に出ました。その留守中に、同僚で彼の甥にあたる荒井三十郎と彼の妻は恋に落ちてしまいました。妻に不義があったとも知らず、翌年金十郎は中津へ帰ってきました。その年は事なく過ぎましたが、次の9年正月、二人は関係が発覚するのを恐れて中津を出て、遠く長崎へと向かいました。しかし、冷水峠にさしかかった3月8日、妻が足を痛め、二人は山家浦下の山田又九郎の家に世話になりました。一方、妻に逃げられた金十郎は藩に妻敵討ちを願い出て小倉から唐津、太宰府へと二人の行方をさがし歩いた末、ついに二人を発見し、この地でだまし討ちにしたそうです。

山田又九郎は二人の死をあわれみ、大日嶺



▲国道200号線横の藪の中に今も残る比翼塚。右の石碑には「法受院釈遺誠靈、安永九子三月十八日」裏に「豊前中津三十郎」、左の石碑には「信受院妙日信女、同年同月」の文字が刻まれています。

の無縁仏の墓地に塚を建ててとむらってやりました。これは比翼塚とよばれ、のちの時代まで語り草となりました。

## 水久神——神様になった大庄屋——



▲岡田堤に建つ水久神の碑。その横には大正9年建立の水城久七翁頌徳碑があります。

江戸時代、山家宿に水城久七という優れた大庄屋がいました。

御笠郡岡田村は水の便が悪く、少し日照りが続くと作物は枯れてしまい、農民はたいへん苦しい思いをしていました。このため久七は租税を軽くしてもらおうよう藩に願いでたりしましたが、それくらいではとても農民を救いきれるものではありません。そこで久七は農民たちを指導し、堤を造ろうと決心しました。何度も郡奉行にかけあい、工事費にあてる御救米150俵をいただいて、堤は5年の歳月をかけて享和元年(1801)3月に完成しました。さらに天山から岡田まで200間(約

660m)の長さの溝を掘り、宝満川の水が天山・岡田両村へ公平に行き渡るように分水の定盤じょうばんを作りました。そのかいがあって村々の田は豊かになりました。

しかし、その久七は米の商取引のための旅行中、激務がたたったのか文政4年(1821)

10月8日、岡山県の久坂ひささかというところで亡くなりました。まだ55歳の若さでした。後の文久3年(1863)、岡田の村人は彼の遺徳をしのび、岡田新堤の土手に「水久神」と刻んだ碑を建て、長くその功績をたたえたということです。

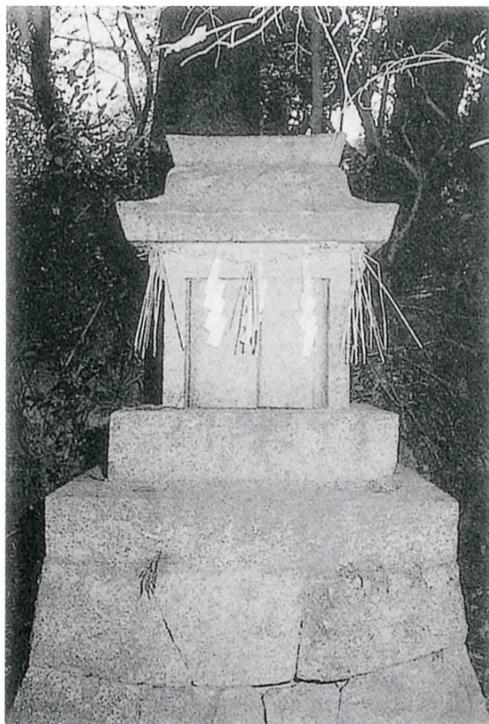
## 太郎坊様——山家に残る愛宕伝説——

山家宝満宮やまえ ほうまんぐうの神殿裏に祭られている小さな石の祠ほこらが「太郎坊様」といわれる神社です。この太郎坊様には、次のような一連の伝説があります。

(1) 後醍醐天皇こうたいこの時代、鎌倉はうじょうたかときの北条高時でんがくはぜいたくをきわめ、田楽でんがく(古代～中世の芸能のひとつ)にふけていたが、その最中に天狗てんぐが現われて大騒ぎとなった。高時の家臣で無類の勇者だった大森彦七おもりひこしちがその天狗を切り捨てると、炎風が彦七を包んで大空に舞い上がり、筑前国御笠郡山家村まで飛んできたという。彦七もやむなくここに住居をかまえ、以降この地が「屋敷やしき」とよばれるようになった。

(2) それから18世代後の大森甚十左衛門の代に移り、夫婦の間に子供ができるようにと京都の愛宕山に祈願して一女を授かった。その子が18歳になったとき、親子そろって愛宕山にお礼参りをした。ところが急にあたりが曇り、天狗が現れて娘をつかみ空に飛び上がった。見上げると天狗の両脇もりながしんのうには護良親王もりながしんのうと楠木正成くすのきまさしげがいて、娘はお酌しやくをさせられていた。天狗は、昔、切られた恨みは今に残ると甚十左衛門夫婦むすめを蹴り殺そうとしたとき、彼は夢から覚め、娘は枕もとにいた。それから彼は巡礼の旅に出て、奥州会津の船問屋の息子を養子に迎えた。

(3) ところがその翌年の文化10年(1813)「屋敷」の甚十左衛門の住居から東方の熊ヶ嶽に黒雲がかかり、愛宕山で見た天狗が炎を吐いて彼の家の上へ飛んでくる。これが火難



▲太郎坊様をまつる祠。

の前ぶれで、その後4月から5月にかけて十数度の火災が起きた。それを払うために祭ったのが「太郎坊様」である。

また、屋敷には「味噌桶みそおけどん」という味噌みそづくしおけの化けものがでる話しも伝えられている。

これら一連の話は、防火・鎮火の神とされる愛宕山太郎坊に、同じく鎮火信仰の厚い秋葉神社の伝説が結び付き、さらに楠木正成の怨霊おんりよう伝説が加えられたもので、主として修験者しゆげんしやによって広められたものと思われます。